

現状と今後の見通し

- ・減少・高齢化率の現状と将来予測(2000年→2020年→2035年)
大工就業者数:65万人→30万人→15万人
(建設全体:356万人→245万人→193万人)
大工就業者高齢化率(60歳以上):22%→40%→41%
(建設全体:7%→27%→35%)
- ・女性技能者の割合(R2時点):大工1.5%(建設全体2.7%)

課題

- ・他産業と比較して不安定かつ不十分な就労環境
- ・技能の継承の難しさと教え手の不足
- ・学生、学校、保護者からの仕事の見えにくさ
- ・女性が働くのが難しい職場環境(トイレ・更衣室 等)
- ・中小の個社による雇用・教育体制の確保の難しさ 等

検討の視点と方向性

視点2:育成環境の整備

- <方向性>
- ・技能職の重要性と魅力の発信
 - ・業界団体と教育機関の連携強化
 - ・技能者の体系的な育成体制の構築

視点1:選ばれる業界・職場への変革

- <方向性>
- ・社員大工化の推進
 - ・他産業に劣らない就労環境の確保
 - ・キャリアパスの見える化
 - ・技能者の能力評価、やりがいの醸成(CCUSなど)

視点3:担い手の裾野の拡大

- <方向性>
- ・女性の入職促進
 - ・外国人材の活用の促進
 - ・地域の担い手の拡大
(コミュニティ大工+施主+地域住民等)

視点4:マネジメントの強化

- <方向性>
- ・地域工務店の経営基盤の強化(事業承継・M&A・アライアンスなど)
 - ・新たな時代に応じたビジネスモデルの展開(維持管理(点検・修繕)、リフォーム、木造建築物など)
 - ・生産性の向上に向けた技術の導入・活用(パネル化、DX・AIなど)

【実現したい社会】

他産業に劣らない就労環境の下、住宅分野の建設技能者が確保され、
結果として、質の高い住まいの安定的な供給と適切な維持管理・更新が行われる社会

→ 今後、住宅分野の担い手確保に向けて官民で連携して取り組むための中長期ビジョンを策定

(参考) 骨子(案)・とりまとめ(案)の対応

第4回骨子(案)

1. はじめに
2. 住宅分野における建設技能者等の現況と今後の見通し
 - (1) 住宅分野における建設技能者等の現況
 - (2) 今後の見通し
3. 取り組むべき課題
 - (1) 入職者の増加
 - 新規入職者の確保推進
 - 女性の入職促進
 - 外国人労働者の入職促進
 - リフォーム技術を持った技能者の確保・育成
 - (2) 職場環境の整備
 - 地域工務店の経営者の意識改革・経営基盤強化
 - 他産業に劣らない就労環境整備（正規雇用、月給制、週休二日、年次休暇、社会保険）
 - 社員大工化の促進
 - (3) 将来の見通しの整備
 - 住宅建設技能者のキャリア形成の見える化
 - 日本人を含めた住宅建設技能者のキャリア育成プランの整備と普及
 - 新たな時代に応じた工務店のビジネスモデルや働き方のロールモデルの提示
 - (4) 生産性向上に向けた省力化・効率化
 - 現場作業・管理の省力化・効率化の推進
5. おわりに

第5回とりまとめ(素案)

- はじめに
1. 住宅分野における建設技能者等の現況と今後の見通し
 - (1) 住宅分野における建設技能者等の現況
 - (2) 今後の見通し
 2. 住宅建設技能者等を取り巻く課題
 - (1) 他産業と比較して不安定かつ不十分な就労環境
 - (2) 技能の継承の難しさと教え手の不足
 - (3) 女性や外国人人材が働くのが難しい職場環境
 - (4) 学生、学校、保護者におけるイメージの低さ
 - (5) 個々の中小工務店による雇用・教育体制の確保の難しさ
 3. 今後の検討の視点と方向性
 - (視点1) 選ばれる職場への変革
 - 社員大工化の促進
 - 他産業に劣らない就労環境の確保
 - 住宅建設技能者のキャリア形成の見える化
 - 住宅建設技能者の能力評価、やりがいの醸成
 - (視点2) 入職者の確保に向けて
 - 業界団体と教育機関が連携した技能職の重要性と魅力の発信
 - 住宅建設技能者の体系的な育成体制の構築
 - (視点3) 担い手の裾野の拡大に向けて
 - 女性技能者の入職促進と外国人材の活用促進
 - 地域の担い手の拡大
 - (視点4) マネジメントの強化
 - 地域工務店の経営基盤の強化
 - 新たな時代に応じたビジネスモデルの展開
 - 生産性の向上に向けた技術の導入・活用
- おわりに